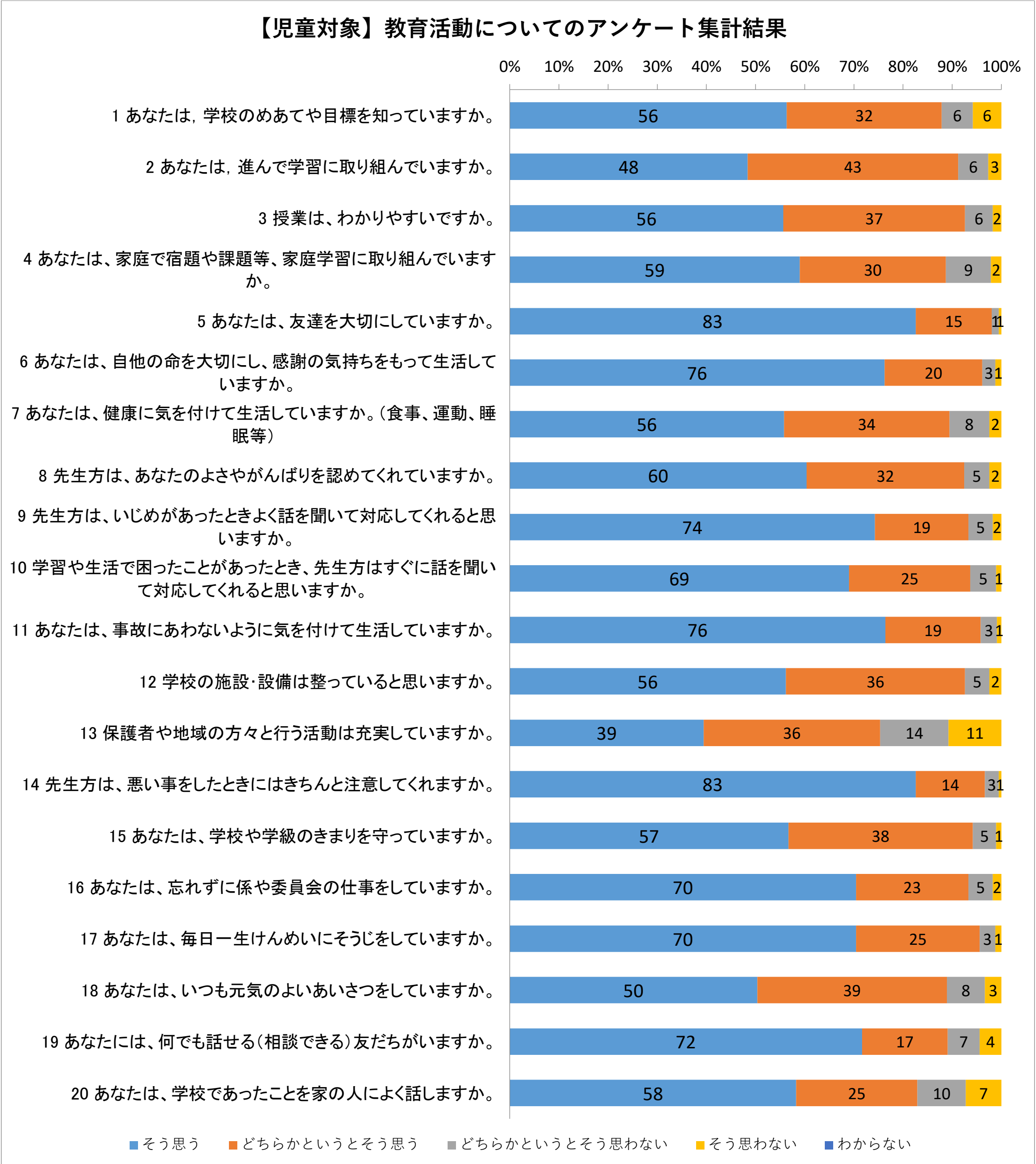




【考察】

特に評価が高かったのは、Q 5「友達への思いやり」 9 8 %（+ 3 pp），Q 6「自他への感謝」 9 6 %（+ 3 pp），Q 1 1「安全と事故防止」 9 6 %（+ 1 pp），Q 1 4「善悪の指導」 9 6 %（+ 3 pp），Q 1 7「清掃」 9 6 %（+ 6 pp）に関する項目となっており、友達や自分に感謝し命を大切にしている児童，安全への意識や善悪の判断ができる児童が多いことがわかります。今年度，目的意識をもって清掃に取り組んでいる児童が増えています。今後もこの状態が続くよう，望ましい行動ができる児童を育てていきます。また昨年度と比べ，Q 1 2「施設・設備」 9 3 %（+ 1 1 pp），Q 8「教師からの評価」 9 2 %（+ 1 0 pp），Q 1 5「規範意識」 9 4 %（+ 9 pp），Q 1 3「保護者との活動」 7 5 %（+ 8 pp）が大きく上昇しました。Q 2，Q 3の「学ぶ力」に関わる項目，Q 9，Q 1 0の「いじめや不登校などに対する相談体制の充実」に関する項目，Q 1 6の「責任感」に関わる項目についても， 9 0 %以上の評価の高い状態となりました。全ての項目について肯定的（そう思う・どちらからといえばそう思う）に捉えている児童の割合が2 pp以上増えていました。このことから学習面でも生活面でも充実した学校生活を送っている児童が多いことがわかります。

今年度も引き続きコロナ禍で活動に制限はありましたが，ご家庭や地域からの励ましを受けながら，ICT機器も有効に活用しつつ学校としてできることを一つ一つ丁寧に取り組んでまいりました。また，感染対策を取りながら学校に訪れる保護者の機会や人数が増えたことは子どもたちも実感しているようです。しかしながら，どの項目でも否定的に捉えている児童が一定数いることを忘れず，どの子にとって学校で楽しく充実感を持って過ごせるように，そして，明日の登校が楽しみになるように努力していきます。

※（前年度比〔pp：パーセントポイント〕）